

平成20年（第2回）みどりの学術賞 選考委員会委員長コメント

平成20年（第2回）みどりの学術賞の選考にあたって、「みどり」に関する学術に造詣の深い学識経験者等約170名に対し、この賞にふさわしい候補者の推薦を依頼しました。その結果、約50名の推薦が得られましたが、分子レベルで植物のメカニズムを研究している方から、森林の生態を研究している方など、非常に多様な分野からお名前が挙がり、改めて「みどり」という言葉の持つ幅広さ、奥深さを思い知らされた次第です。

今回、植物光生化学の分野で光合成の仕組みを解き明かした浅田浩二博士、緑地環境計画の分野で都市における緑地の役割を明らかにした石川幹子博士という、細胞と都市という全く異なるスケールで研究を行っているお二人がみどりの学術賞を受賞されることは、「みどり」の持つ豊かなイメージを象徴するものであるとともに、今後とも「みどり」に関する学術がバランスよく発展していくことを願う選考委員会のメッセージでもあります。

平成20年3月7日

内閣府みどりの学術賞選考委員会委員長
山田 康之